



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

梅雨の時期に大雨を降らせるのはどんな雲ですか？

雨雲の種類を大きく分類すると、水平方向に広がる層状の雲と、垂直方向に伸びる塔状の雲に分けられます。梅雨前線は前線の北側を中心として高層雲や高積雲と呼ばれる層状の雲が広がり一様な雨を降らせます。前線付近や南側では垂直に伸びる積雲や積乱雲が発達しやすく、激しい雨を降らせます。多くの積乱雲が重なっていわゆる線状降水帯が形成されると、同じ場所で激しい雨が降り続き、土砂災害などの大きな災害につながります。

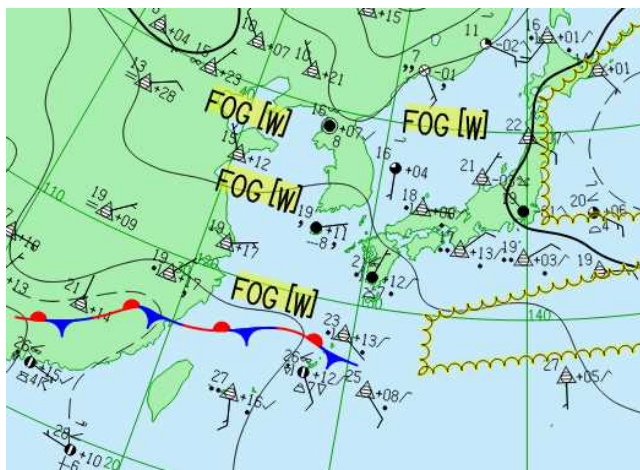


高層雲(上)と積乱雲(下)

5月も終わりにになると、九州北部もそろそろ梅雨入りが近づいてきます。農家にとって梅雨はなくてはならない季節現象ですが、毎年この時期には必ずといっていいほど大雨による災害が発生しています。

ところで、ひと口に「雨」といっても、気象台では科学的な根拠に基づいた観点から「しゅう^う雨性の雨」と「一様に降る雨」の二つを区別しています。雨の降り方の違いは、雨を降らせる雨雲ができるときの風の流れや、大気の状態(安定しているのか、変化が激しいのか)を反映しているからです。「しゅう雨(漢字では「驟雨」と書きます)」という言葉は一般にはなじみがないと思いますが、一様性の雨に比べて雨粒が大きく、急に始まり急に終わり、大きく変化するような雨のことです。

気象台では、世界気象機関(WMO)が決めている雲形の観測方法に基づいて10種類の雲形を区別しており、多くは雲のできる高さを表す字(巻、高)と状態を表す字(層、積など)を組み合わせて名前がつけられています。このうち、しゅう雨性の雨は、「積雲」と「積乱雲」から、一様に降る雨は主に「高層雲」と「高積雲」あるいは「乱層雲」から降ります。「層」がつく雲は水平方向にペターッと広がった雲、「積」がつく雲はモコモコした雲といえばイメージできるのではないのでしょうか。ただし雨が降っているとき



アジア太平洋域の天気図(高層雲は「<」、積乱雲は「△」などの記号が記入されている)

に積乱雲を真下から見ても、写真のような形は分かりません。そこでは天気図やレーダーなど他の情報も含めて考えたうえで「今はこの雲がしやすい気象状態になっていて、この雨の降り方になっている」と判断できる知識や経験も必要になってきます。

通常、梅雨前線の北側には高層雲や高積雲(衛星の写真で幅のある帯状の雲にみえる)が広がり、広範囲に一樣な雨を降らせますが、雷や猛烈な雨になることはあまり

ありません。しかし、前線付近や前線の南側では積雲や積乱雲が発達しやすく、この雲の下ではしゅう雨性の雨が降ります。積乱雲も単独だと通り雨で過ぎますが、多数の積乱雲が発生すると、激しい雨の止み間がなくなり総雨量も増えることとなります。特に注意したいのは線状に連なって同じ場所で降り続けるときです。

気象関係者の間では、九州で大雨になるときは、降水帯が線状になることが多いことは昔から言われていました。ここ数年は短時間での雨の降り方が激しく、毎年のように甚大な災害を引き起こしているため、線状降水帯という言葉も一般に広まってきたといえます。気象台では昨年からの線状降水帯が発生したことを、レーダー観測による雨域を細長い円で示してお知らせしています。さらに今年の6月からは、線状降水帯が発生する可能性を予測する情報も発表することにしています。

ご意見をお待ちしています

お気づきの点があればご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便(はがき、封書)で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台防災調査課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

Fax：092-725-3163

e-mail：fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp

次回の発行は2022年6月の予定です。